

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

韓国、金融緩和に動けず (Asia Weekly (6/4~6/10))

~中国の景気減速は台湾に徐々に悪影響を与えている~

発表日: 2012年6月11日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/5 (火)	(台湾) 5月消費者物価 (前年比)	+1.74%	+1.40%	+1.44%
	(フィリピン) 5月消費者物価 (前年比)	+2.9%	+3.0%	+3.0%
	(豪州) 金融政策委員会 (政策金利)	3.50%	3.50%	3.75%
6/6 (水)	(豪州) 1-3月期実質 GDP (前年比)	+4.3%	+3.3%	+2.5%
	(前期比/季調済)	+1.3%	+0.6%	+0.6%
	(マレーシア) 4月輸出 (前年比)	▲0.1%	+1.1%	▲0.1%
	4月輸入 (前年比)	+7.4%	+5.6%	+1.6%
6/7 (木)	(韓国) 1-3月期実質 GDP (前年比/改訂値)	+2.8%	--	+2.8%
	(前期比/季調済/改訂値)	+0.9%	--	+0.9%
	(豪州) 5月失業率 (季調済)	5.1%	5.1%	5.0%
	(台湾) 5月輸出 (前年比)	▲6.3%	▲5.3%	▲6.4%
	5月輸入 (前年比)	▲10.5%	▲4.7%	+2.1%
	(中国) 緊急金融政策委員会 (1年物預金金利)	6.31%	--	6.56%
	(1年物貸付金利)	3.25%	--	3.50%
6/8 (金)	(韓国) 金融政策委員会 (政策金利)	3.25%	3.25%	3.25%
6/9 (土)	(中国) 5月消費者物価 (前年比)	+3.0%	+3.2%	+3.4%
	5月生産者物価 (前年比)	▲1.4%	▲1.1%	▲0.7%
	5月小売売上高 (前年比)	+13.8%	+14.2%	+14.1%
	5月鉱工業生産 (前年比)	+9.6%	+9.8%	+9.3%
	1-5月固定資産投資 (前年比)	+20.1%	+20.0%	+20.2%
6/10 (日)	(中国) 5月輸出 (前年比)	+15.3%	+7.1%	+4.9%
	5月輸入 (前年比)	+12.7%	+5.5%	+0.3%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【韓国】 ~インフレ率は低下しているが、ウォン安などによる悪影響を懸念して金利据え置きを継続~

7日に発表された1-3月期の実質GDP成長率(改訂値)は前年同期比+2.8%となり、速報値と同じであった。前期比年率では+3.5%と、速報値(同+3.7%)から▲0.2p下方修正されている。政府消費はわずかに上方修正されたものの、個人消費や固定資本投資、輸出入すべてについて若干下方修正が行われ、全体的にもわずかに下方修正された。

8日、韓国銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を12ヶ月連続で3.25%に据え置く決定を行った。同行は足元の同国経済について、国際金融市場の混乱など外的要因により下振れするリスクはあるものの、内需をけん引役に緩やかな拡大は続いているとの見方を示している。一方、5月のインフレ率は前年同月比+2.51%とインフレ目標(2~4%)に収まり、コア物価は同+1.55%と目標を下回るなど足下のインフレ圧力

は後退しているが、公共料金の値上げなど先行きのインフレ期待は煽っていることを警戒している。足下の金融市場の混乱により、地方を中心にバブル的な上昇が続いてきた不動産市況にはピークアウトの兆しが窺えるものの、株価や為替の急落は景気に悪影響を与える可能性もある。足下のウォン安は輸入物価を通じてインフレ圧力を高める可能性があることから、同行はウォン安を招く金融緩和に動きにくい事情を抱えている。したがって、当研究所では年内いっぱいはいは現行水準で金利が据え置かれると予想している。

図1 KR 実質 GDP 成長率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 KR 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 KR インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 KR 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾] ~エネルギー価格の下落などでインフレ圧力は後退。輸出を取り巻く環境は依然厳しい~

5日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+1.74%となり、前月(同+1.44%)から加速した。なお、食料品価格の上昇圧力は強まったものの、原油価格の調整を背景にエネルギー価格は下落しており、足下の景気減速も重なり前月比は+0.04%と前月(同+0.39%)から減速し、物価上昇圧力は後退している。こうしたことから、コア物価は前年同月比+0.65%と前月(同+0.77%)から減速し、前月比も▲0.09%とわずかに下落しており、物価は落ち着いている。

7日に発表された5月の輸出額は前年同月比▲6.3%となり、前月(同▲6.4%)からわずかにマイナス幅が縮小した。前月比は+1.5%と前月(同▲3.2%)から増加に転じており、景気低迷が続くEU向けは低調なほか、中国向けも横這いで推移しているものの、アジア新興国や日本向けは増加基調にあり、全体を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比▲10.5%となり、2ヶ月ぶりにマイナスに転じた。前月比も▲3.2%と4ヶ月ぶりに減少しており、このところの商品市況が調整していることも影響している。結果、貿易収支は+22.64億ドルと前月(+6.89億ドル)から黒字幅が拡大した。なお、先行きについては世界経済の不透明感を反映して輸出受注が伸び悩んでおり、厳しい状況が続くと予想される。

図5 TW インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 TW 輸出入(前年比)の推移

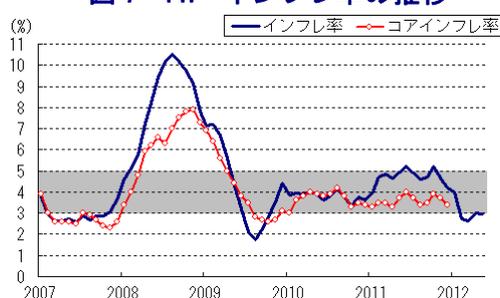


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン] ～食料品やエネルギー価格の落ち着きを背景にインフレ率は減速基調が続いている～

5日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+2.9%となり、前月(同+3.0%)から減速した。食料品価格の上昇一服や原油市況の調整を背景にエネルギー価格は下落しており、前月比も+0.23%と前月(同+0.39%)から減速しており、物価上昇圧力は後退している。足下の金融市場の混乱に伴うペソ安は輸入物価を押し上げると懸念されているが、堅調な内需を期待した海外資金の回帰により底堅さも窺われることから、先行きにおいてインフレ率の急上昇を招く可能性は低いと思われる。

図7 PH インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 PH 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ～世界経済の減速による輸出の鈍化を反映して輸入も低調に推移している～

7日に発表された4月の輸出額は前年同月比▲0.1%となり、前月と同じ伸びであった。なお、前月比は+1.5%と前月(同▲12.0%)に落ち込んだ反動で増加したものの、世界経済の減速を背景に回復の勢いに乏しい状況が続いている。一方の輸入額は前年同月比+7.4%となり、前月(同+1.6%)から加速した。前月比も+0.8%と前月(同▲10.1%)の反動で増加に転じたものの、輸出の回復の鈍さを反映して緩やかな拡大に留まっている。結果、貿易収支は+75.06億リンギと前月(+104.54億リンギ)から黒字幅が縮小した。

図9 MY 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上